

安全データシート

改定日 2024年4月 1日

1. 製品及び会社情報

製品情報

製品名 : 新規アスファルト混合物
①アスファルト安定処理②粗粒度アスコン③密粒度アスコン 13F③密粒度 G アスコン
④細粒度アスコン⑤細粒度アスコン(歩道用)⑥アスファルトモルタル

供給者の会社名称 : 極東建設株式会社

連絡先 :

電話番号 : 0125-23-1171

FAX番号 : 0125-23-2030

会社名(製造元) : 極東建設株式会社 中空知りサイクルセンター

住所 : 〒073-1103
樺戸郡新十津川町字中央 146 番地 1

推奨用途及び使用上の制限 : 道路舗装用途

2. 危険有害性の要約

【加熱時】

GHS 分類

急性毒性(経口) : 区分外(シンボル: なし、注意喚起語: なし)

急性毒性(経皮) : 区分外(シンボル: なし、注意喚起語: なし)

急性毒性(吸入/ガス) : 分類できない(シンボル: なし、注意喚起語: なし)

皮膚腐食性/皮膚刺激性 : 区分外(シンボル: なし、注意喚起語: なし)

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 : 区分2(シンボル: 感嘆符、注意喚起語: 警告)

呼吸器感作性 : 分類できない(シンボル: なし、注意喚起語: なし)

皮膚感作性 : 区分外(シンボル: なし、注意喚起語: なし)

生殖細胞変異原性 : 区分2(シンボル: 健康有害性、注意喚起語: 警告)

発がん性 : 区分2(シンボル: 健康有害性、注意喚起語: 警告)

生殖毒性 : 分類できない(シンボル: なし、注意喚起語: なし)

特定標的臓器毒性(単回暴露) : 区分3(気道刺激性)(シンボル: 感嘆符、注意喚起語: 警告)

特定標的臓器毒性(反復暴露) : 区分1(呼吸器系)(シンボル: 健康有害性、注意喚起語: 危険)

吸引性呼吸器有害性 : 区分外(シンボル: なし、注意喚起語: なし)

水生環境有害性(急性) : 分類できない(シンボル: なし、注意喚起語: なし)

水生環境有害性(慢性) : 分類できない(シンボル: なし、注意喚起語: なし)

オゾン層への有害性 : 分類できない(シンボル: なし、注意喚起語: なし)

※ 上記、物理化学的危険性について記載のないものは「分類対象外」もしくは「分類できない」

GHS ラベル要素

シンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

- 強い眼刺激
- 遺伝性疾患のおそれの疑い
- 発がん性のおそれの疑い
- 呼吸器への刺激のおそれ
- 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器系の障害

注意書き

常温のストレートアスファルトは、GHS危険有害性分類に非該当であるが加熱時に発生するミスト／煙／蒸気／ヒューム等には有害性が指摘されており、以下の注意書きとともに記載する。

安全対策

- ・ SDS を読み理解するまで取り扱わない事
- ・ 本製品に含まれるストレートアスファルトの加熱溶融時に発生するミスト／煙／蒸気／ヒュームを吸い込まないように、
 室外で取扱う場合は風上で作業を実施し、室内の場合は十分な換気を行う
- ・ 取扱い後は良く手を洗うこと
- ・ この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと
- ・ 状況に応じ、保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること

応急措置

- ・ 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗う事。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・ ばく露又は、ばく露の懸念がある場合、医師の診断／手当を受けること。
- ・ 気分が悪い時は、医師の診断／手当を受けること
- ・ 眼の刺激が続く場合、医師の診断／手当を受けること

保管

- ・ みだりにアスファルトヒュームを発生させないように保管すること

廃棄

- ・ 都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

【常温時】

GHS 分類

急性毒性（経口）	: 区分外（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
急性毒性（経皮）	: 区分外（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
急性毒性（吸入／ガス）	: 分類できない（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
皮膚腐食性／皮膚刺激性	: 区分外（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	: 区分外（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
呼吸器感受性	: 分類できない（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
皮膚感受性	: 区分外（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
生殖細胞変異原性	: 区分外（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
発がん性	: 区分外（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
生殖毒性	: 分類できない（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
特定標的臓器毒性（単回暴露）	: 分類できない（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
特定標的臓器毒性（反復暴露）	: 分類できない（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
吸引性呼吸器有害性	: 区分外（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
水生環境有害性（急性）	: 分類できない（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
水生環境有害性（慢性）	: 分類できない（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
オゾン層への有害性	: 分類できない（シンボル：なし、注意喚起語：なし）

GHS ラベル要素

シンボル

絵表示なし

注意喚起語

注意喚起語なし

危険有害性情報

なし

注意書き

安全対策

なし

応急措置

なし

保管

なし

廃棄

なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：	混合物
化学名又は一般名：	新規アスファルト混合物
別名：	石油アスファルト混合物
成分及び含有量：	アスファルト（3.8～9.0%） 碎石、砂など天然物 約95%
化学特性（化学式）：	特定できない
官報公示番号：	9-1720（化審法）、12-189（安衛法）
CAS 番号：	8052-42-4（アスファルト）
危険有害成分：	特定できない
化学物質排出把握管理促進法：	非該当
労働安全衛生法：	表示対象物（通知対象物） アスファルト 0.1wt%以上

毒物劇物取締法： 対象物ではない

化学名又は一般名	質量	化学式	CAS No.	官報公示整理番号	
				化審法	安衛法
ストレートアスファルト	3.8~9.0%	特定できない	8052-42-4	(9)-1720	12-189
30~0 切込砂利	0~93.7%	特定できない	天産物		
5号砕石	0~19%	特定できない	天産物	-	-
6号砕石	28~42%	特定できない	天産物	-	-
7号砕石	0~18%	特定できない	天産物	-	-
粗砂	0~47%	特定できない	天産物	-	-
細砂	0~39%	特定できない	天産物	-	-
石粉	3~15%	特定できない	天産物		
				-	-

4. 応急措置

吸入した場合

- 新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。体を毛布等でおおい、保温して安静を保ち、直ちに医師の手当を受ける。
- 呼吸が止まった場合及び呼吸が弱い場合は、衣服を緩め、呼吸軌道を確認した上で、人工呼吸を行う。
- 本製品に含まれるストレートアスファルトの加熱時に硫化水素／一酸化炭素を発生する可能性がある。加熱溶融時に発生するミスト／煙／蒸気／ヒュームを吸入すると頭痛、めまい、吐き気等の症状を生じる可能性がある。したがって、汚染の可能性のある場所から出来るだけ早く移動すると共に、そうした場所に入る場合は空気呼吸器を装着する。

皮膚に付着した場合

- 大量の水でヒリヒリしなくなるまで冷やし、皮膚に付着したアスファルトは取り除かないで、医師の手当を受ける。

眼に入った場合

- 清浄な水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続け、最低15分以上洗浄後、医師の手当を受ける。

飲み込んだ場合

- 無理に吐き出さずに、速やかに医師の診断を受ける。口の中が汚染されている場合には、水で十分に洗う事。

急性症状及び遅発性症状の

最も重要な徴候症状

- ポリマー改質アスファルトは加熱時に硫化水素／一酸化炭素を発生する可能性がある。硫化水素は、ばく露許容濃度(10ppm)以上吸入すると、頭痛、めまい、嘔吐、下痢等の症状を起こす。400~700ppmでは、30分~1時間のばく露で急性死または後死が考えられ、700ppm以上の硫化水素の吸入は、意識喪失や死につながる呼吸器系統の麻痺を起す。^{a)}

一酸化炭素は、中毒の目安として300ppm未満なら影響は少なく、600ppm未満では軽度の作用があり、900ppm未満で中ないし高度の影響がある。1000ppm以上になると危篤症状が現れ、1500ppm以上では生命の危険に及ぶ。^{a)}

応急措置をする者の保護

- 現在のところ有用な情報なし

医師に対する特別な注意事項

- 現在のところ有用な情報なし

5. 火災時の措置

消火剤

- 霧状の強化液、粉末、炭酸ガス、泡が有効である。

使ってはならない消火剤

- ・棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。

火災時の措置に関する特有の危険有害性

- ・現在のところ有用な情報なし。

特定の消火方法

- ・火元への燃焼源を断つ。
- ・初期の火災には、粉末、炭酸ガスを用いる。
- ・大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。
- ・周囲の設備等に散水して冷却する。
- ・火災発生場所の周辺には関係者以外の立ち入りを禁止する。

消火を行う者の保護

- ・消火作業の際は、風上から行い必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項

- ・作業では、保護具を着用する。

環境に対する注意事項

- ・下水道・河川等に流出し、二次災害・環境汚染を起こさないように注意する。

除去方法

- ・全ての着火源を取り除き、漏洩箇所の漏れを止める。
- ・危険地域より人を退避させる。危険地域の周辺にはロープを張り、人の立ち入りを禁止する。
- ・少量の場合は、土・砂・おがくず・ウエス等に吸収させる。
- ・大量の場合は、盛土で囲って流出を止め後、液面を泡で覆ってから容器に回収する。
- ・室内で漏洩した場合は窓・ドアを開け十分に換気を行う。

二次災害の防止策

- ・漏洩時は事故の未然防止及び、拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
- ・消火用器材を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- ・炎、火花または、高温体との接触を避けるとともにみだりにミスト・蒸気を発生しないこと。

注意事項

- ・本製品に含まれるストレートアスファルトは加熱時に硫化水素／一酸化炭素を発生する場合があるため、硫化水素や一酸化炭素を吸い込まないように風上で作業実施の事。
- ・溶融アスファルトが皮膚に触れると、火傷する恐れがあるので、作業中は手袋、その他の保護具を着用すること。

安全取扱い注意事項

- ・ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触を避ける。

保管

安全な保管条件

・加熱した状態で保管する場合には、過加熱や雨水の混入に注意する。常温で保管の場合は、直射日光の当たらない室内に保管する。

- ・ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との同一場所での保管を避ける。

注意事項

- ・熱、スパーク、火災並びに静電気の蓄積を避ける

安全な容器包装材料

- ・法令の定めるところに従う。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

- ・屋内作業場は、排気装置を設置する。

管理濃度

- ・ストレートアスファルトとしては設定されていない。
- ・労働安全衛生法 作業環境管理濃度（2012年4月改正）ⁿ⁾1ppm（硫化水素として）

許容濃度

- ・日本産業衛生学会^{d)}（2015年度版） 勧告値なし（ストレートアスファルトとして）
5ppm（硫化水素として）、50ppm（一酸化炭素として）
- ・ACGIH^{b)}（2014年度版）
時間加重平均（TWA）値 0.5mg/m³（Asphalt fume as benzene-soluble aerosol）
1ppm（硫化水素として）、25ppm（一酸化炭素として）
短時間ばく露限界（STEL）値 勧告値なし（Asphalt fume as benzene-soluble aerosol）
5ppm（硫化水素として）

保護具

呼吸器用の保護具

- ・状況に応じて呼吸器用保護具等を使用する。

手の保護具

- ・状況に応じて耐熱性、および耐油性保護手袋等を使用する。

目の保護具

- ・状況に応じて保護眼鏡等を使用する。

皮膚及び身体の保護具

- ・状況に応じて保護衣等を使用する。

特別な注意事項

- ・現在のところ有用な情報なし。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

形状	: 固体
色	: 黒色
臭い	: データなし
pH値	: データなし

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

沸点	: データなし
凝固点	: データなし
分解温度	: データなし
引火点	: 約 260°C以上（ストレートアスファルト）
発火点	: 約 480°C（ストレートアスファルト）
爆発特性	: 爆発限界 下限：データなし/上限：データなし
蒸気圧	: データなし
溶解性	: 非水溶性
オクタン/水分配係数	: データなし
その他のデータ	: 初留点：350°C以上（ストレートアスファルト） 軟化点：約 50°C（ストレートアスファルト）

10. 安定性及び反応性

化学的安定性

- ・常温で貯蔵・保管された場合、安定である。

反応性

- ・強酸化剤との接触を避ける。

避けるべき条件

- ・ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないように注意する。

避けるべき材料

- ・現在のところ有用な情報なし

危険有害な分解生成物

- ・燃焼した場合、煙、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。

その他

- ・現在のところ有用な情報なし

11. 有害性情報

急性毒性

- ・急性毒性は低いと推定される。^{o)}
- ・減圧蒸留残渣油として
 - 経口 ラット LD50 5000mg/kg 以上^{k)} (ストレートアスファルト)
 - 経皮 ウサギ LD50 2000mg/kg 以上^{k)} (ストレートアスファルト)

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

- ・減圧蒸留残渣油として、ドレイズテストの結果は刺激性なし。^{k)} ただし、加熱された溶融アスファルトとの接触は、火傷の恐れがあるので注意すること。

目に対する重篤な損傷・眼刺激性

- ・常温におけるほぼ固体状態での有害性に関するデータは確認できない。
- ・減圧蒸留残渣油として、ドレイズテストの結果、軽度の刺激性が確認されている。
- ・アスファルト蒸気/ヒュームによる結膜炎、眼刺激性が複数報告されているが、回復性のものであったと記載がある。^{p) q)}
- ・溶融アスファルトから発生するガスは、呼吸器系や眼の粘膜を刺激する。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

- ・減圧蒸留残渣油については、モルモットに対する皮膚感作性試験において陰性であったとの報告がある。^{a)}
- ・呼吸器感作性については現在のところ有用な情報なし。

生殖細胞変異原性

- ・アスファルトヒュームまたはアスファルトヒューム凝縮液、アスファルトペイント等による各種試験結果があり、生殖細胞変異原性については陽性/陰性のデータが存在する。^{o) p) q) r)}
- ・しかしながら、in vivo 体細胞変異原性試験/体細胞遺伝毒性試験の陽性結果、並びに in vitro 変異原性試験の陽性結果、さらに本物質は変異原性があるとの記載^{p)}を総合的に考慮し区分2とした。

発がん性

- ・道路舗装等のストレートアスファルトによる長期間に及ぶ『アスファルト・エミッション』による職業ばく露について IARC は、「グループ 2B) (人に対して発がんの可能性はある)」に分類している。^{o)} なお、IARC は、「アスファルト・エミッション」を「加熱され酸化した物質および気体、及び気体となったアスファルトが空気中で凝集し、小さな粒となり雲状になったヒューム」と規定し、「道路舗装」を「アスファルト混合物製造、運搬、舗設に関わる作業」、「職業ばく露」を「作業者が1日に4-9時間程度を長時間にわたりさらされること」と規定している。
- ・EU CLP 規則 (1272/2008/EC) 付属書VI Table3.1 および Table3.2 に記載されていない。(有害性として分類されない)

生殖毒性

- ・現在のところ有用な情報なし

特定標的臓器毒性、単回ばく露

- ・黒ネズミに対し、針入度級アスファルトを3ヶ月毎に200mg皮下注射を行ったが、解剖所見で皮膚腫瘍は見られなかった。^{d)}
- ・アスファルトヒュームに含まれる硫化水素/一酸化炭素により気道刺激性があることが知られている。^{p) q)}

特定標的臓器毒性、反復ばく露

- ・常温におけるほぼ固体状態での有害性に関するデータは確認できない。
- ・アスファルトヒュームの吸入試験（マウス、6-7h/日、5日/週で21ヶ月）で気管浸潤、気管支炎、肺炎、腫瘍、繊毛損失、上皮萎縮および皮膚肥厚が認められた。ⁱ⁾
- ・ヒトにおいて、ヒュームの吸入経路で鼻炎、口咽頭炎、喉頭炎、気管支炎、ヒュームの経皮ばく露では皮膚炎、ざ瘡（にきび）様の病変、軽度角化症が報告されている。また実験動物において、マウスを用いた吸入毒性試験において呼吸器に影響がみられているが、ばく露濃度の記載がなく分類に用いることはできない。
- ・ヒトにおいて呼吸器系に影響が見られていることから区分1（呼吸器系）とした。^{p) r)}

吸引性呼吸器有害性

- ・動粘性率が8000mm²/s以上であるので区分外

その他

- ・製品は、通常加熱使用されているので、皮膚や眼に触れると火傷になる。
- ・高温時に発生するガスを吸入すると嘔吐及びめまいを起こすことがある。
- ・本製品に含まれるストレートアスファルトの加熱時に硫化水素/一酸化炭素が発生する場合がある。
- ・硫化水素は、ばく露許容濃度（10ppm）以上吸入すると、頭痛、めまい、嘔吐、下痢等の症状を起こす。400～700ppmでは、30分～1時間のばく露で急性死または、後死が考えられ、700ppm以上の硫化水素の吸入は、意識喪失や死につながる呼吸器系統の麻痺を起す。^{a)}
- ・一酸化炭素は、中毒の目安として、300ppm未満なら影響は少なく、600ppm未満は軽度の作用があり、900ppm未満で中ないし高度の影響がある。1000ppm以上になると危篤症状が現れ、1500ppm以上では生命の危険に及ぶ。^{a)}

12. 環境影響情報

生体毒性

- ・現在のところ有用な情報なし

残留性/分解性

- ・残留性
アスファルトは常温で蒸発しないが、道路舗装や屋根防水等の工事の為に加熱する際、ヒュームを発生する。発生したヒュームはすぐに凝縮、沈降して土壌に吸着する。ヒュームの揮発性成分は大気中のヒドロキシラジカルと反応する。水中では分散性は乏しく、浮くか沈むかである。土壌中では移動性はない。^{m)}
- ・生分解性
アスファルトの水生環境における生分解性の研究例は、見当たらない。しかし、数百年にわたって道路舗装や、屋根防水に利用してきた経験から、アスファルトは明らかにいつまでも持続する（分解しない）物質であり、生分解性がない事が特長でもある。^{m)}

生体蓄積性

- ・アスファルトの構成成分のLog Kowは6以上なので、生体蓄積性があると判定されるが、実際には、極めて水に難溶であり、このような高分子量の物質が水中生物の体内に取り込まれることは考えにくい。^{m)}

土壌中の移動性

- ・土壌中では、移動性はない。^{m)}

オゾン層への有害性

- ・情報なし

13. 廃棄上の注意

- ・ 知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託し処理する。
- ・ 海、河川、湖その付近および排水溝に投棄してはならない。
- ・ その他関係法令の定めるところに従う。

14. 輸送上の注意

国内規制

- ・ 下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。

陸上 : 消防法 該当せず

海上 : 船舶安全法 非危険物

航空 : 航空法 非危険物

国際規制

国連分類 : 該当せず

国連番号 : なし

追加の規制 : 現在のところ有用な情報なし

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

- ・ 輸送は、通常ダンプトラックによる加熱混合物の運搬なので、火傷しないように注意する。
- ・ その他関係法令の定めるところに従う。

15. 適用法令

消防法 :	該当しない
労働安全衛生法 :	表示対象物 (通知対象物) アスファルト 0.1wt%以上
船員法 :	船員労働安全衛生規則
海洋汚染防止法 :	油分排出規制
下水道法 :	鉱油類排出規制
水質汚濁防止法 :	油分排出規制
廃棄物の処理及び清掃に 関する法律 :	産業廃棄物規則

16. その他の情報

【引用文献】

- 後藤、稠ほか: 産業中毒便覧(増補版) 医歯薬出版(1981)
- ACGIH(2014) Threshold limit values and biological exposure indices.
- CONCAWE product dossier no. 92/104 "bitumens and bitumen derivatives"
- IARC(1985) Monographs on the evaluation of the carcinogenic risk of chemicals to humans. Vol.35, SUPPLEMENT 7
- 危険物、毒物処理取扱いマニュアル (海外技術資料研究所 1974年4月)
- 化学物質の危険・有害便覧(平成10年版) 中央労働災害防止協会(1998)
- 危険物船舶運送便覧 (船積危険物研究会 1997年3月)
- 化審法化学物質改訂第5版 化学工業日報社(2002)
- 許容濃度等の勧告(2013) 日本産業衛生学会 産業衛生学雑誌
- EC理事会指令「67/548/EEC」 付属書 I 「危険な物質リスト」

- k) API “ROBUST SUMMARY OF INFORMATION ON ASPHALT” (2003).
- l) IPCS(Environmental Health Criteria 20, Selected Petroleum Products)
- m) CONCAWE report no. 01/54 environmental classification of petroleum substances –summary data and rationale
- n) 作業環境測定基準の一部を改正する告示等の適用等について(厚生労働省 基発0207第3号 平成24年2月7日)
- o) IARC(2013) Monographs on the evaluation of the carcinogenic risk of chemicals to humans. Vol.103.
- p) ACGIH (7th, 2001)
- q) WHO/IPCS:「国際簡潔評価文書(CICAD)」 Vol.59 (2005)
- r) ドイツ学術振興会(DFG) “Occupational ToxicantsCritical Data Evaluation for MAK Values and Classification of Carcinogens” Vol. 17

危険・有害性の評価は必ずしも充分でないので、取扱いには充分注意してください。

この安全データシートは、当社の製品を適正にご使用いただくために、必要かつ注意すべき事項を簡潔にまとめたもので、通常の取扱いを対象としています。本製品は、この安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。

ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、これらのデータや評価は、いかなる保証をするものではありません。また、法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。
